

VDR 消費者情報

特集：「若年層の老後に向けての貯蓄状況」

- < 調査の概要 >
- 調査方法：インターネット調査
 - 調査期間：2020年2月7日～9日
 - 調査対象：全国、20～34歳の男女
 - 調査数：1,500サンプル

令和2年3月26日発行（第41号）
 発行者：坂上真介 編集：西野達也
 東京都品川区西五反田8-3-16
 西五反田8丁目ビル4F
 株式会社市場開発研究所
 連絡先：Tel：03-5436-6222
 Fax：03-5436-6232

●調査の背景と目的

「老後2,000万円問題」や「人生100年時代」など、若年層の老後を取り巻く環境に変化が生じています。

QUICK資産運用研究所が実施した「個人の資産形成に関する意識調査」では、「老後2,000万円問題」を受けて意識や行動が変化したと答えた割合は、20代が最も多く、30代がそれに続く結果となっています。また、資産運用を始めた割合も20～30代が他の年代より高く、20～30代の老後に向けての意識の変化が見られます。筆者自身も20代ですが、周りの友人・知人が老後に向けて貯蓄を始めたことと耳にする機会が増えてきました。

それらを踏まえ、本調査では調査対象を男女20～34歳の若年層に絞り、老後に向けての貯蓄率や利用している金融サービス・制度などを聴取し、「若年層の老後に向けて」の貯蓄状況を明らかにしていきたいと思っております。

●老後を支える金融サービス・制度の紹介

続いて、調査結果を見る前に老後を支える金融サービス・制度をご紹介します。まず、貯蓄といったら皆さん「定期預金」が想起されると思います。その他にも様々な金融サービス・制度は存在するのですが、あまり馴染みのないものもあるかと思えます。そこで、各金融サービス・制度の概要を簡単にご紹介します。

| 金融サービス・制度 | 概要 |
|------------------|--|
| 定期預金 | ・預け入れから一定期間お金を引き出せない預金のこと。 ・定期預金の預け入れ期間は最短で1ヶ月が主流。 |
| 積立定期預金 | ・毎月決まった積立日に、決まった積立額が、普通預金口座から自動で積み立てられる定期預金。 |
| 積立投信 | ・毎月一定額の投資信託を購入しながら、積み立てていくサービスのこと。 ・つみたてNISAとの主な違いは、投資で得た収益に対して手数料がかかること。 |
| つみたてNISA | ・2018年にスタートした、少額からの投資を行う方のための非課税制度。 ・毎年40万円までの投資で得た収益が最長で20年間非課税になる。 |
| iDeCo（個人型確定拠出年金） | ・加入者が毎月一定の金額を積み立て、あらかじめ用意された定期預金・保険・投資信託といった金融商品で自ら運用し、60歳以降に年金または一時金で受け取れる。 |
| 企業型DC（企業型確定拠出年金） | ・自身が所属する企業が拠出した掛金を、加入者（従業員）が自分の考えで運用できる制度。企業が掛金を拠出する点以外はiDeCoと同様の制度。 |
| ロボアドバイザー | ・インターネット上で投資診断や投資アドバイスを行ったり、運用（売買や最適化など）を代行してくれるサービス。 |

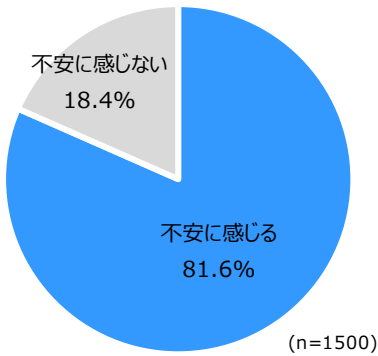
本調査では、上記7個の金融サービス・制度の利用状況を見ていきます。

若年層の8割強が老後の生活に“不安を感じている”

■ あなたは、老後の生活に不安を感じますか。(ひとつだけ)

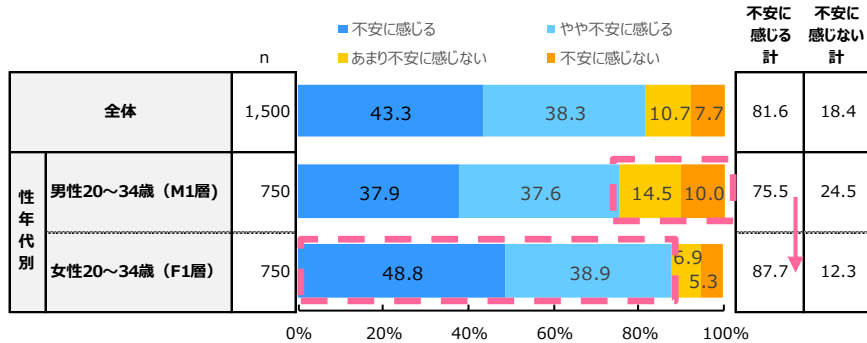
- 今回行った調査の結果として、まず若年層がどの程度老後の生活に不安を抱いているのか確認していきましょう。
- 結果をみると、実に若年層の8割強が老後の生活に“不安を感じている”と回答しました。筆者自身、調査結果が出るまでは6割程度が“不安を感じているのではないか”と思っておりましたので、この結果に驚きを隠せません。
- M1層・F1層で比較すると、女性の約9割が老後の生活に“不安を感じている”と回答し、男性を10ポイント以上上回る結果になりました。一方で、男性の約4人に1人が老後の生活に“不安を感じない”と回答し、男女で老後の生活に対する意識の違いが見られました。

■ 老後の生活に対する不安度 <全体>



※不安を感じる=「不安を感じる」+「やや不安を感じる」
不安を感じない=「不安を感じない」+「あまり不安を感じない」

■ 老後の生活に対する不安度 <性年代別>

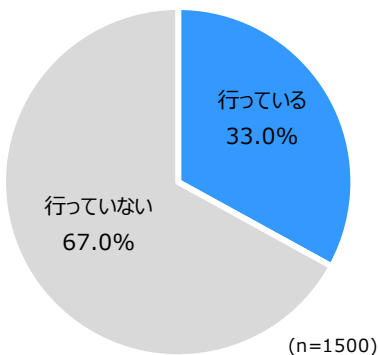


若年層の3割強が老後に向けて“貯蓄を行っている”

■ あなたは、現在老後に向けて貯蓄を行っておりますか。(ひとつだけ)

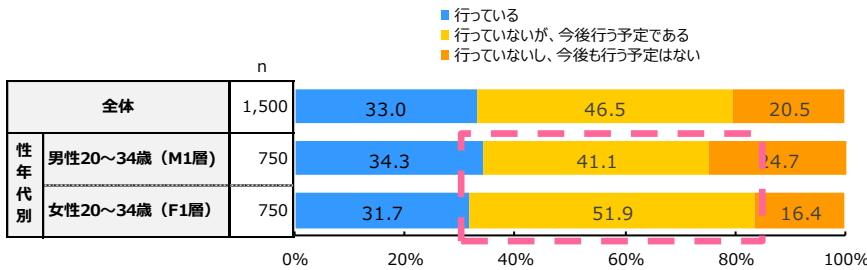
- 次に、若年層が老後に向けてどの程度貯蓄をしているのか見ていきます。
- 若年層の3割強が老後に向けて“貯蓄を行っている”ことがわかりました。M1層・F1層で比較しても、貯蓄率に大きな差は見られないものの、女性は貯蓄実施意向が男性より高くなりました。この結果は、老後の生活に対する不安度の違いによるものだと思います。
- 老後の生活に対する不安度で比較すると、不安を感じている層の6割半ばが“貯蓄を行っていない”ことが判明しました。一方で、その中の約8割は老後に向けての貯蓄実施意向があるため、何らかの要因によって貯蓄に踏み切れていないのではないかと考えられます。

■ 老後に向けての貯蓄率 <全体>

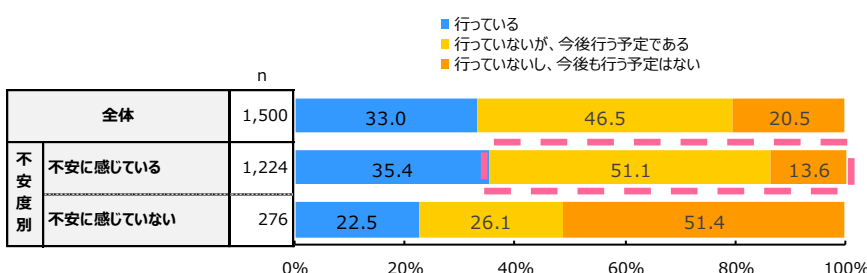


※行っていない=「行っていないが、今後行う予定である」+「行っていないし、今後行う予定はない」

■ 老後に向けての貯蓄率 <性年代別>



■ 老後に向けての貯蓄率 <老後の生活に対する不安度別>



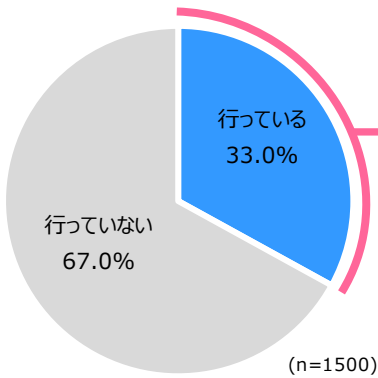
若年層の約4割は「定期預金」、2割は「つみたてNISA」を利用している

■ あなたが現在老後に向けて貯蓄するために、利用している金融サービス・制度をお知らせください。（いくつでも）

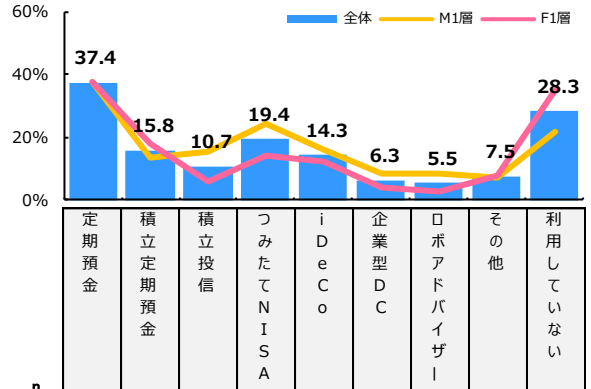
- それでは、老後に向けて貯蓄を行っている若年層が、どの金融サービス・制度を利用しているのか確認していきましょう。
- 老後に向けて貯蓄している若年層が最も利用している金融サービス・制度は、「定期預金」（37.4%）となりました。次いで「つみたてNISA」（19.4%）、「積立定期預金」（15.8%）、「iDeCo」（14.3%）が利用率の高いものとなりました。
- M1層・F1層で比較すると、男性は女性と比べ、「積立投信」「つみたてNISA」などの投資信託を毎月一定額積み立てる金融サービス・制度の利用率が高くなるのがわかりました。一方で、女性は「利用していない」が3割半ばと男性を上回る結果となりました。女性は、男性より老後の生活に“不安を感じている”ものの、金融サービス・制度の利用に踏み切れていない様子が伺えます。

■ 老後に向けての貯蓄率 <全体>

■ 金融サービス・制度の利用状況 <性年代別> ※老後に向けて貯蓄している人ベース



※行っていない＝「行っていないが、今後行う予定である」
+「行っていないし、今後もしない」



| | | n | 定期預金 | 積立定期預金 | 積立投信 | つみたてNISA | iDeCo | 企業型DC | ロボアドバイザー | その他 | 利用していない |
|------|----------------|-----|------|--------|------|----------|-------|-------|----------|-----|---------|
| 全体 | | 495 | 37.4 | 15.8 | 10.7 | 19.4 | 14.3 | 6.3 | 5.5 | 7.5 | 28.3 |
| 性年代別 | 男性20～34歳 (M1層) | 257 | 37.4 | 13.6 | 15.2 | 24.5 | 16.3 | 8.6 | 8.2 | 7.4 | 21.8 |
| | 女性20～34歳 (F1層) | 238 | 37.4 | 18.1 | 5.9 | 13.9 | 12.2 | 3.8 | 2.5 | 7.6 | 35.3 |

若年層は、いずれかの金融サービス・制度と「定期預金」を併用する傾向がある

■ あなたが現在老後に向けて貯蓄するために、利用している金融サービス・制度をお知らせください。（いくつでも）

- 続いて、金融サービス・制度の併用状況を確認します。
- 結果をみると、若年層はいずれかの金融サービス・制度と「定期預金」を併用する傾向が見られました。特に「企業型DC」、「積立定期預金」利用者で併用する割合が高く、いずれも半数を上回りました。
- また、「つみたてNISA」といずれかの金融サービス・制度を併用する者も一定数見られました。「つみたてNISA」と併用率が高い金融サービス・制度は、「積立投信」（52.8%）、「iDeCo」（39.4%）と、ともに投資信託を毎月一定額積み立てるものとなりました。

| | n | 定期預金 | 積立定期預金 | 積立投信 | つみたてNISA | iDeCo | 企業型DC | ロボアドバイザー | その他 |
|----------|-----|------|--------|------|----------|-------|-------|----------|-----|
| 定期預金 | 185 | | 21.6 | 11.9 | 19.5 | 17.3 | 8.6 | 5.4 | 0.5 |
| 積立定期預金 | 78 | 51.3 | | 11.5 | 14.1 | 14.1 | 9.0 | 3.8 | 2.6 |
| 積立投信 | 53 | 41.5 | 17.0 | | 52.8 | 24.5 | 9.4 | 11.3 | 3.8 |
| つみたてNISA | 96 | 37.5 | 11.5 | 29.2 | | 29.2 | 9.4 | 10.4 | 1.0 |
| iDeCo | 71 | 45.1 | 15.5 | 18.3 | 39.4 | | 4.2 | 9.9 | 2.8 |
| 企業型DC | 31 | 51.6 | 22.6 | 16.1 | 29.0 | 9.7 | | 6.5 | 3.2 |
| ロボアドバイザー | 27 | 37.0 | 11.1 | 22.2 | 37.0 | 25.9 | 7.4 | | 3.7 |
| その他 | 37 | 2.7 | 5.4 | 5.4 | 2.7 | 5.4 | 2.7 | 2.7 | |

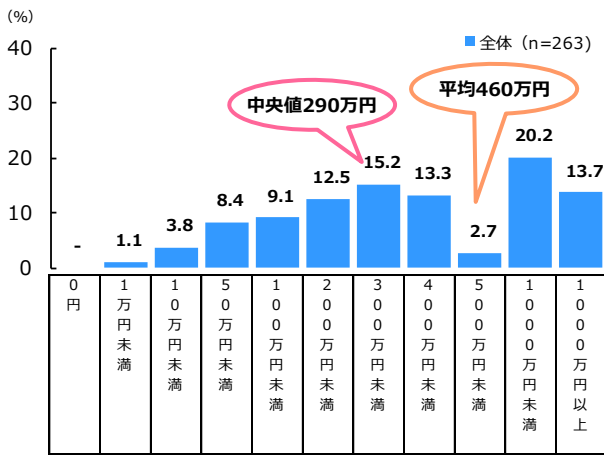
貯蓄額の中央値は290万円、 老後に向けて必要と思う貯蓄額の中央値は2,000万円

■ あなたの現在の貯蓄額をお知らせください。

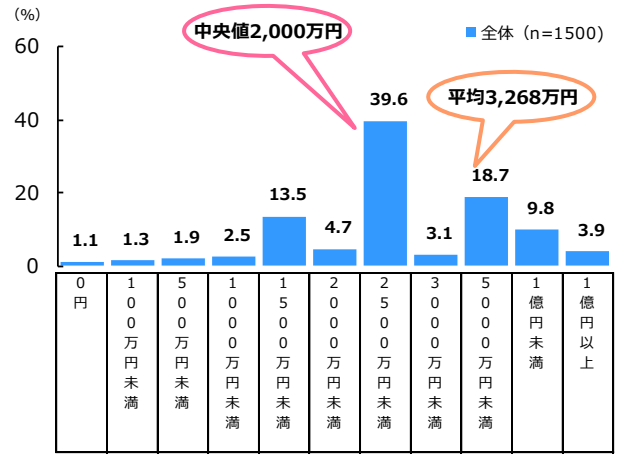
■ あなたは、老後に向けてどのくらい貯蓄が必要と感じておりますか。

- 若年層の現在の貯蓄額と老後に向けて必要と思う貯蓄額がどの程度の金額になるのを見ていきましょう。
- まず老後に向けて貯蓄をしている若年層の貯蓄額をみると、中央値が290万円、平均が460万円となりました。
- 続いて老後に向けて必要と思う貯蓄額は、中央値が2,000万円、平均が3,268万円となりました。中央値が2,000万円という結果に結び付いたのは、「老後2,000万円問題」の報道が各メディア・SNSで大きな話題になったことが大きく影響していると推察されます。

■ 現在の貯蓄額 <全体> ※老後に向けて貯蓄している人ベース



■ 老後に向けて必要と思う貯蓄額 <全体>



まとめ

まず筆者自身が驚いたことは、若年層の老後の生活に対する不安度が8割強と高いものの、その中の3割半はしか貯蓄を実施していないことです。老後の生活に不安を感じているからこそ、貯蓄をするものだと思っておりましたので、予想外の結果となりました。一方で、老後の生活に対して不安に感じている層の5割強が貯蓄実施意向があることを省みると、何らかの要因によって貯蓄という行動に踏み切れていない可能性もあるのではないかと思います。その要因が何かは今回の調査結果からは明らかにできませんが、“貯蓄の仕方がわからない”や“どんな金融サービス・制度があるかわからない”などが要因となってくるのではないかと考えております。

次に驚いたことは、貯蓄実施層の金融サービス・制度の利用状況において若年層の特徴が見られたことです。それは、2019年9月末時点の家計金融資産の内訳の中で「投資信託」が占める割合が全年代で僅か3.8%に留まるなか、投資信託を毎月一定額積み立てる「つみたてNISA」の利用率が19.4%となったこと、「つみたてNISA」と併用率の高い金融サービス・制度が「積立投信」「iDeCo」となったことです。正直、調査実施前までは約5人に1人が「つみたてNISA」を利用しているとは思っていませんでしたので、この結果には驚きました。また、若年層は全年代と比較して、「投資信託」を保有することに前向きだと感じました。

本調査の実施目的は、冒頭でも述べましたが、“「若年層の老後に向けて」の貯蓄状況を明らかにする”ことです。それに関しては少なからず明らかにできたと感じております。今後も若年層の貯蓄状況に注目しつつ、金融に関する情報を定期的に発信していきたいと思っております。

(営業企画部／西野 nishino@mdr-j.co.jp)

ご希望の方には、今回調査した全てのデータをお渡しします。お気軽に営業担当までお問い合わせください。